

最後に、このような貴重な機会を提供して下さった日本医療マネジメント学会の関係者の方に感謝いたします。

2018年度医師事務作業補助者指導者養成講習会に参加して 一般財団法人厚生会仙台厚生病院医療クラーク部門

主任 田中 奈津子



会場風景

今回は日本医療マネジメント学会主催の医師事務作業補助者指導者養成講習会に参加しました。講習会では疾患と臨床用語、診療録や書類作成、医療保険・診療報酬などの基礎知識や医師事務作業補助者マネジメントの実際、海外における医師事務作業補助者業務、コーチングなどの4日間で充実した内容の講義をしていただきました。ワークショップをとおして、他の病院の業務内容や教育体制、不安や悩みなども共有することができました。

不安を抱えて業務を行うのではなく、積極的にやりがいを持って働ける環境作りをすることが医師の負担軽減、医療の質の向上と経営改善にもつながることを学びました。変化のはげしい医師事務作業補助者の業務のため、業務内容を把握し、業務の見える化・標準化する。教育体制の確立、サポート体制の重要性を改めて感じました。

今回の講習会で学んだことを指導者として実践できるよう自己研鑽し、当院の医師事務作業補助者と共有しながら、医師の負担軽減、病院経営にも貢献していきたいと思います。

支部学術集会開催報告

第18回栃木県支部学術集会

学術集会会長：国立病院機構宇都宮病院院長 沼尾利郎

2018年10月13日(土)にとちぎ健康の森を会場として第18回栃木県支部学術集会を開催し、157名の参加者がありました。今回は「地域医療の賢い選択」をテーマに掲げ、特別講演には国際医療福祉大学の高橋 泰教授より「人口減少社会に向けて、医療はどのように変わるか？」と題して、「航空業界から学ぶ医療界の生産性向上のヒント」「イノベーションを活用した医療現場の働

き方の最適化」などのご講演を頂きました。

一方、今回の新たな取り組みとしてポスター発表(10題)と同時進行する形で職種別グループワークを行い、医療ソーシャルワーカー・診療情報管理士・医師事務作業補助者の3職種の方たちに参加して頂き、「医療専門職として病院経営に貢献できること」について現場の視点から話し合いました。このグループワークの意見も参考にした上で、パネルディスカッションでは上記3職種のパネリストから自職のアピールや今後の展望などの発表があり、「病院を支える医療専門職の人材育成とネットワーク」に関して活発な意見交換を行いました。本学術集会の開催にあたり、ご参加頂いた皆様やご支援ご協力頂きました関係者の皆様に心より御礼申し上げます。



会場風景

第18回北海道支部学術集会

学術集会会長：社会医療法人製鉄記念室蘭病院病院長
前田 征洋

2018年10月14日(日)に、製鉄記念室蘭病院がん診療センター大講堂を会場として、日本医療マネジメント学会第18



会場風景

回北海道支部学術集会を開催いたしました。テーマは「～医療の質の向上をめざす取り組み～」で、参加者数は93名でした。特別講演では、京都大学大学院医学研究科医療経済学分野教授の今中雄一先生より「これからの医療介護経営と可視化の展開：データ、組織、地域」について、独立行政法人国立病院機構北海道がんセンター院長の加藤秀則先生より「がん診療の質の向上について～北海道がんセンターでの取り組み～」についてご講演をいただきました。他にも、医療情報・システム、